

崎門祭について

四年神道學科 駒井 一

崎門祭とは

崎門祭は、山崎闇齋先生の命日に、闇齋先生の學派である崎門派の偉業を偲び、その學徳を稱へ、その精神を繼がうとする意志を固くするために行はれるのである。

崎門派とは

山崎闇齋先生は朱子學者であり、尊皇を根本とし、忠義を重んぜられた。特に門弟の淺見綱齋先生の『靖獻遺言』の忠義の精神は幕末まで影響し、栗山潜鋒先生の『保建大記』は帝王學の書とされる。さらに、多くの門人が明治維新に貢献した。

また、闇齋先生は垂加神道を大成した神道家でもある。門人の若林強齋先生の『神道大意』は皇學館の神道神學に影響を與へてゐるし、谷川士清の『日本書紀通釋』は優れた註釋書である。また、吉見幸和は『五部書說辨』で伊勢神道の根本經典であつた『神道五部書』が偽書であることを考證し、絶大な影響を與へた。

二百五十年祭

崎門祭の中でも、昭和七年十月二十三日に東京帝國大學大講堂で開催された二百五十年祭が特に盛大であつた。昭和七年六月の中頃に平泉先生が有馬大將の要請を受けて準備を始められ、「崎門會」

をつくられた。

「山崎闇齋先生、天和二年九月十六日に逝去せられて、今年は歿後二百五十年に當るにより、今秋の御命日にはお祭りをして學恩を報謝すると共に、その精神を世に明らかにしたいと思ひますが、それに就いて一切の事、御心配にあづかりたいと思ひますが、如何でせう。」

五つの事業

祭典、御贈位（從三位）、講演會、展覽會、記念圖書出版（『闇齋先生と日本精神』）が行はれた。

祭典は十月二十三日、東京帝國大學大講堂で齋行され、高松宮殿下が臺臨された。

祭典に續いて大講堂で講演會が行はれた。内田周平、上田萬年、徳富蘇峰が登壇された。さらに大講堂の廊下で展覽會が行はれ、澤山の崎門派の遺著遺墨が陳列された。

